

大品系般若經における空の敎説の成立について

鈴木 廣 隆

大品系般若經は小品系般若經から發展して成立したというのが定説であるが、現存の大品系般若經は大品系の原型からさらにいくつかの發展段階を経ており、種々の大乘思想を取り入れていたため、小品系に比べて複合的な構成となつている。本稿は特に空の敎説に注目して小品系から大品系への發展を考察する。

まず小品系と大品系の内容を全体的に比較すると、大品系は第一に小品系に対する註釈的な内容の挿入、第二に全く新しい内容の付加という二段階を経て成立していると考えられる。大品系の羅什訳『摩訶般若波羅蜜經』の品名に則して見ると、三假品第七から累敎品第六十六まで（B部分）が第一段階の註釈的増広であり、この前後、序品第一から舌相品第六まで（A部分）と、無盡品第六十七から如化品第八十七まで（C部分）が第二段階の新内容として付加され、さらに小品系と共通の常啼品第八十八、法尚品第八十九、喞累品第九十でしめくくられる。ただし小品系においても付加的部分と

みなされている常啼品・法尚品の二品は大品系でも欠く異本がある。

さてこのうち第二段階として新たに付加されたA部分は、主にシャーリプトラの間から展開しているが、小品系はスピーティが主となり、シャーリプトラは副となつて展開していることからみてこの部分が二次的な内容であるような印象を与える。さらに往生品第四と舌相品第六ではアーナンダが世尊の微笑の理由を尋ね、世尊が授記を与えて敎説をしめくくっている。したがつて大品系の説かんとする内容はここで尽きているとさえ考えられる。その内容を概観すると、(1)菩薩の実践すべき大乘特有の実徳徳目、(2)不可得を方便とする実践の強調、(3)空の敎説、(4)利他行の重視などを主題としており、このうち(3)空の敎説では十種散動分別の対治として *Abhidharmasmuccayabhasya* など¹⁾に引かれる經文に相当する敎説と、『般若心經』に通ずる敎説が説かれ、大品系特有の空の敎説がこの部分に集まつている。特に十種散動対治

は小品系と対応するB部分にも同じ内容が散見されるため、それらの教説を再構成した可能性が強い。そこでB部分から十種散動対治と共通の表現をひろいあげ、そのきっかけとなる小品系の内容を求めることによって、大品系独特の空の教説が小品系のどこからどのように成立したのかを考察する。十種散動の対治として引用される経文(抄訳)

(一)菩薩は菩薩として存在しながら、(二)菩薩を見ない。(三)名称は自性について空である。(四)しかし、空性について(空では)ない、(五)なぜなら色の空性は色ではない。(六)色と空性とは異ならず、色はすなわち空性であり、空性はすなわち色である……(七)なぜなら菩薩の名称、菩薩、般若波羅蜜、菩提、色乃至識というのは名称のみのものである。(八)自性に関しては生ずることなく、滅することなく、汚れることなく、清まることがない。(九)なぜなら名称は人為的なもの(kiṭṭima)であり、(その名称の)それに対して諸々のものが構想され(kappiṭa)仮に付加された(aggantika)名称によって言い表わされ、言い表わされるままに執着される。(十)菩薩はそれら全ての名称を見ない。見ないので執着しない。

文中の番号はそれぞれ(一)無相、(二)有相、(三)増益、(四)損減、(五)一性、(六)異性、(七)自性、(八)差別、(九)如名取義、(十)如義取名の各散動の対治として配当されることを示す。

次に小品系と対応するB部分からこの教説と共通の表現をさがし、同時にその表現のきっかけとなった小品系の内容に

大品系般若経における空の教説の成立について(鈴木)

ついて検討する。

「1」小品系の冒頭で世尊が

スプーティよ、菩薩大士らがそのように般若波羅蜜に向って出離するであろうように、菩薩大士らの般若波羅蜜について、汝に明らかにならんことを。

と要請したのに対してスプーティは

私は菩薩というものを見ず、般若波羅蜜というものを見ない。その私が……いったいどの菩薩をどの般若波羅蜜において教へ導かうか。

という逆説的表現をもって答えているが、これを受けて大品系は世尊の説として名称に関する教説を展開している。

般若波羅蜜とか菩薩とかいうのは名称のみのもの(nanamātra)である……その名称(nama)とらうものは表示するだけ(prañāpīmatra)であり、表示としてのもの(prañāpīdharma)表示としての有(prañāpīsat)である。ものの表示(dharmaprañāpīti)には生ずることなく、滅することもない。名称を仮に立てるだけのもの(namasanketamātra)として言い表わされる……如来によって化作されたものは、例えば夢、反響、陽炎、映像、幻に等しいものであり、それら全ては生ぜず、滅せず、名称を仮に立てるだけのものとして言い表わされる……このように般若波羅蜜において実践している菩薩大士は色を常住であるとは見ない……なぜなら菩薩大士は般若波羅蜜において実践しつつ、般若波羅蜜も般若波羅蜜の名称も、菩薩も菩薩の名称も見ない。有為界にお

いても、無為界においても。なぜなら般若波羅蜜において実践している菩薩はこれら全てのものを構想せず分別しない。無分別のものにとどまって四念処を修する……その般若波羅蜜において実践している者はもの特相に通達する。ものの特相、それは汚れず清まらぬ……彼は名称を仮に立てること、ものを表示することによって覚知してからは色に執着しない……

じ)じ) namamātra を prajñaptimātra と規定し、「見ない (na samanupeśyati)」を「構想せず (na kalpavati) 分別しない (na vikalpavati)」と規定する点に発展した大品系の特徴が表われている。ただし後者の規定は『十万頌般若』にはないことから、大品系でもかなり後の付加と考えられる。これらの内容は十種散動対治では(イ)、(ウ)、(エ)及び(カ)に相当する。「2」小品系には「1」と同じスプーティの言明が何度かくりかえされるが、その二番目の箇所では、

私は菩薩という名前 (nāmadheya) を知らず、知覚せず、見ないし、般若波羅蜜も知らず、知覚せず、見ないのでの菩薩をどの般若波羅蜜において教え導びようか⁽¹⁶⁾

と、考察の対象を名前に向けてから、

名前は現に存在しているのではないから、確立したものでなく、確立していないものでもない⁽¹⁷⁾

と説く。ここまででは大品系もおおむね同じであるが、これを受けて以下の内容を展開する。

世尊よ、菩薩というのはものを仮に立てるもの (dharmaśāṅkēti) のを表示すること (dharma-prajñapti) であり、それは何ものによっても言い表わされない。例えば (十八) 界によっても、また (十二) 処によっても乃至十八不共仏法によっても……
じ)じ) namadheya に対し) prajñaptimātra である。この内容は十種散動対治では(イ)に相当する。

「3」小品系でスプーティが

般若波羅蜜において実践している菩薩大士は色などにとらわれるべきではない……⁽¹⁸⁾

と説くのを受けて大品系は次の内容を説く。

なぜならば、色は色性 (rūpavāc) について空である……色の空性 (rūpāśūnyatā)、それは色ではない……空性と色とは異ならず、色はすなわち空性であり、空性はすなわち色である。⁽¹⁹⁾

これは大品系の空の教説の中心となる内容であるが、小品系のものに対するとらわれの否定から展開していることがわかる。これらの内容は十種散動対治では(イ)、(ウ)、(カ)に相当する。

「4」小品系でシャーリプトラが

どのように実践している菩薩が般若波羅蜜において実践することになるのか⁽²⁰⁾

と問うのに対してスプーティが

もしも菩薩が色において実践せず、色の相(mimta)において実践せず、色は相であるとして実践せず、色の生起において実践せず、色の止滅において実践せず、色の破壊において実践せず、色は空であると実践せず、「私は実践する」と思って実践せず、「私は菩薩である」と思って実践しないならば……般若波羅蜜において実践するのである。

と説くのを受けて、小品系は

なぜならば、色の空性、それは色ではない。空性と色とは異ならず、色と空性とは異ならない。色はすなわち空性であり、空性はすなわち色である。

という「3」と同じ空の教説を説く。ここでも、ものの諸相に對するとらわれの否定から空の教説が展開している。

〔5〕小品系でスピーティが

その幻(maya)と色とは異ならず、色がすなわち幻であり、幻がすなわち色である……新発意の菩薩大士がこの教説を聞いて恐れ、おののき、恐怖におちいることがあつてはならない。

と述べるのを受けて小品系ではスピーティが

新発意の菩薩大士が恐れ、おののかないような善巧方便とは何かと展開し、世尊が次のように説く。

菩薩大士は一切相智(satyakarahata)に結びついた心によって、色は無常であると觀察するが、認識することはない……さらにまたこのように觀察する。色は色の空性(śūnyatā)について空なのではない。色がすなわち空性であり、空性がすなわち色で

小品系般若経における空の教説の成立について(鈴木)

ある。このように実践している菩薩大士は恐れ、おののくことがない。

ここで小品系の幻(maya)に関する説示は空の教説の中心部分と形式上全くパラレルであり「幻」と「空性」を入れ替えれば全く同じ内容になる。ここから「幻」と「空性」が同義であると直ちに考えるわけにはいれないが、幻は実体がないに現われるものであり「無自性であるもの」の比喩であると考えれば、「自性を欠くこと」を暗示する小品系の「空性」へと展開していく必然性は認めうるであろう。ただしその過程で種々の「もの」から共通の「こと」へと転換するところに小品系の空の教説の眼目を認めなければならぬ。これらの内容は十種散動対治では(四、内)に相当する。

〔6〕小品系で「1」、「2」と同じスピーティの言明が三たび説かれる箇所では前二者の内容が発展的に統合されている。

このように、あらゆる仕方でもあらゆる仕方でも全く菩薩の属性を認識していない私は、それに対して菩薩という名称が与えられているそのものを見ない……この私は、あらゆる仕方でもあらゆる仕方でも全くそのものを認識することなく、見ることがないが、いかなるものをいかなるものにおいて教え導びようか。

以上の内容に對して小品系は順次解説を加える形で教説を展開しているが、以下に空に関する部分を抜粋する。

色は色について空である……空性の中に色は存在しない……この名前は仮に付加されたもの (agantuka) であるから色という名前には色ではない。なぜなら名称は名称の自性について空である。空であるものは名称ではない……色は本性として空である (prakti-sūnya)。本性として空であるものには生ずることも滅することもない。⁽²²⁾

このように空を説くが、名称を仮に付加されたもの (agantuka) と規定していることは、十種散動対治の(4)に対応する他、「空性の中に色は存在せず云々」という『般若心経』と共通の空の教説におけるのと同じ表現もあらわれている。

以上の検討によって、小品系の「菩薩も般若波羅蜜も見ない」云々という表現から名称に関する説が展開し〔1〕、「(2)」「もう一方」色などにとりかわれるべきではない」という執着の否定から空及び空性の説を展開している〔3〕、「(4)」。この二つを柱として、大品系に展開した種々の教説を再構成することによって十種散動対治に相当する空の教説が成立することが確認できる。⁽²³⁾ 以上空の教説の成立に限定した考察ではあるが、大品系般若經の成立においては、第一段階に小品系に対する註釈的増広があり、第二段階で付加された内容はその註釈的内容を受けて再構成されていることが認められた。

1 梶芳光運『大乘仏教の成立史的研究』七二三頁以下を前提として考察をすすめる。2 ed. N. Tania, pp. 137-138. 3 拙論『二万五千頌般若』1、2、1に於ける空の教説』『印仏研』三十五巻二号参照。4 前註『Abhidharmasamuccayabhāṣya』46。5 散動分別の名称は『撰大乘論』支婁詵(大正蔵三十一巻一四〇頁上)に従った。6 *Aṣṭasāhasikā Prajñāpāramitā*, ed. P. L. Vaidya (ZiL A) p. 2, II. 1-3. 7 A, p. 3, II. 6-10. 8 *Pāñcaviṃśatisāhasikā Prajñāpāramitā*, ed. N. Dutt (ZiL A) p. 99, II. 11-12. 9 P, p. 99, I. 14ff. 10 P, p. 101, I. 8ff. 11 P, p. 102, I. 5ff. 12 P, p. 105, I. 14ff. 13 P, p. 105, I. 12ff. 14 P, p. 105, I. 16ff. 15 *Satasāhasikā Prajñāpāramitā*, ed. P. Ghosa, p. 378, I. 18. 16 A, p. 4, II. 13-17. 17 A, p. 4, II. 20-21. 18 P, p. 123, I. 22ff. 19 A, p. 4, I. 25ff. 20 P, p. 128, I. 10ff. 21 A, p. 6, II. 28-29. 22 A, p. 6, I. 29-p. 7, I. 7. 23 P, p. 141, II. 1-10. 24 A, p. 8, I. 29-p. 9, I. 2; p. 9, II. 10-11. 25 P, p. 154, II. 20-21. 26 P, p. 154, I. 22ff. 27 P, p. 155, I. 15-p. 156, I. 2. 28 A, p. 13, II. 3-7. 29 P, p. 248, II. 20-21; p. 248, I. 21-p. 249, I. 1; p. 250, II. 22-24; p. 253, II. 19-22.

30 このことは大品系の古く年代の漢訳諸本でも同様に確認できる。

〈キーワード〉 空の教説、大品系般若經

(北海道大学大学院修了)